

事業所における自己評価結果(公表)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		基準に基づいた設備となっています。集まりや机上課題活動と、自由遊びや運動課題活動の部屋を区別することで、活動しやすくしています。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		配置基準に基づいた職員配置を行っています。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		下駄箱やロッカー等にはイラストを貼って、視覚的にわかりやすくしています。部屋の入り口の段差にはマットを敷き、危険のないようにしています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		日常の清掃や消毒に努めるとともに、遊具類なども適切に収納しています。活動内容に合わせて、室内の環境整理を行っています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		職員全員でPDCAサイクルによる話し合いを毎日行っています。また、年度末にも年間の振り返りを行い、次年度につないでいます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		保護者向けアンケートを実施して、保護者等の意向を把握し、業務改善に努めています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		東部療育センターのホームページ内にて、公開しています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	外部評価については、現在実施しておりません。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		法人内研修の参加や外部研修に参加しています。研修に参加した職員の報告の時間を設け、全職員が共有できるようにしています。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		面談の際に、保護者から情報やご希望を頂き、支援計画を作成しています。より具体的な内容の計画作成に努めています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		標準化された書式のシートを使用しています。

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		児童発達支援計画は、利用者の特性や発達段階、保護者のニーズに基づき支援内容を設定しています。今後も児童発達支援ガイドラインの視点を取り入れながら、適切な支援計画が設定できるようにしていきます。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		朝礼時に、利用者の支援計画と最新の状況の確認を行い、職員の共通認識のもと支援を行っています。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		活動担当者が立てたプログラムをもとに、職員間で話し合って活動プログラムを決定しています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		季節に合った内容を取り入れながら、利用者が年間を通して様々な活動を経験できるようにしています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		利用者の状況に合わせて、個別活動と集団活動を組み合わせながら、児童発達支援計画を作成しています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		朝礼に職員全員が参加し、その日の支援内容や職員の役割分担について確認しています。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		支援終了後に職員全員で終礼に参加し、その日の振り返りや反省及び、情報の共有を行っています。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		保育日誌と個人記録に細かく記録し、職員がいつでも確認できるようにしています。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		半期に一度、モニタリングと支援計画の見直しの為、保護者と個別面談を行っています。
		㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		必要に応じて連携を取り合い、情報を共有しながら支援を行っています。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		現在、対象となるお子さんは在籍しておりません。

関係機関や保護者との連携

②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		現在、対象となるお子さんは在籍しておりません。
②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		必要に応じて、保育所や幼稚園への訪問を実施するなどして、関係機関と情報共有を行っています。
②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○	利用者対象が3、4歳児である為、行っていません。
②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		東部療育センターと連携し、言語聴覚士や作業療法士等の専門職による学習会を実施しています。
②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	利用者のほとんどが、幼稚園や保育園等と並行通園されている為、そのような機会は設けませんでした。
②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		分園事業に関わる課題も踏まえて、東部療育センターが参加しています。
③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		年3回の個別面談を行っています。単独通園クラスは、送迎の際の伝達と、連絡ノートを使って様子を伝え合っています。親子通園クラスは、療育の説明と振り返りを毎回行っています。
③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		定期的にクラス懇談や学習会を実施しています。
③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に、重要事項説明書と契約書の説明をしています。
③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」に基づき児童発達支援計画を作成し、保護者の同意を得ています。
③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		随時、相談に応じています。必要に応じて関係機関の協力も得ながら行っていきます。

保護者への説明責任等	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		父母の会の活動はありませんが、クラス懇談や学習会を開催することで、保護者の交流の機会を設けています。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		保護者等から相談や申し入れがあった場合は、迅速かつ適切な対応を心がけ、取り組んでいます。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		単独通園クラスは、毎月クラスだよりを配布しています。親子通園クラスは、登園時にその日の活動内容や次回の活動についてのお知らせを記載したレジュメを配布しています。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		法人内研修を受け、個人情報の取り扱いには注意するよう徹底しています。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		面談や、電話相談、連絡ノートなどを通して、一人ひとりの状態に合ったコミュニケーションの方法で意思の疎通を行っています。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		利用者のプライバシー保護等もあり、隣接する九州産業大学からの実習生受け入れ程度としています。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		マニュアルを整備しています。契約時に説明し、保護者が閲覧しやすい場所に提示しています。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		定期的に避難訓練を実施しています。避難方法については、保護者に説明しています。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		利用開始前に、「子どもの状況表」に保護者が記入し、提出をお願いしており、東部療育センターの医師や看護師と確認しています。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		必要に応じて、医師の指示に基づいた情報を保護者から確認し、職員間で情報共有を行っています。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		該当事例は、終礼で報告と共有を行い再発防止に努めています。業務日誌やヒヤリハット記録簿に記録しています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		管理者が、東部療育センターの虐待防止・身体拘束適正化委員会に参加し、内容を職員と共有しています。また、職員全員で法人内研修にも参加しています。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		支援計画会議で検討し、必要がある際は、面談や送迎時に保護者への確認や説明を確実にし、了承を得た上で支援計画に盛り込んでいます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。